

事後評価シート

【評価年月】 平成15年4月

【主管課・室】 環境保健部企画課特殊疾病対策室

【評価責任者】 特殊疾病対策室長 上家和子

施策名、施策の概要及び予算額

施 策 名	- 10 - (2) 水俣病対策
施策の概要	平成7年水俣病問題政治解決に際しての閣議了解等に基づき、 水俣病総合対策（健康管理事業、医療事業） チッソ支援などの地域振興 水俣病経験の情報発信と国際貢献 水俣病に関する総合的研究 等を実施するものである。
予 算 額	9,758,996千円（14年度予算）

目標・指標、及び目標の達成状況

目 標	水俣病総合対策について、平成7年の閣議了解等に基づき着実に実行する。 また、水俣病に関する総合的研究について、着実に進める。
達成状況	水俣病総合対策については、平成7年の閣議了解等に基づき、水俣病総合対策、地域再生・振興などを着実に実行した。また、水俣病に関する総合的な研究については、医学的研究や臨床・疫学研究を行うなど着実に実行した。

下位目標1	平成7年の水俣病問題解決に当たっての閣議了解等を踏まえ、水俣病総合対策、地域再生・振興などを着実に実行する。
達成状況	平成7年の水俣病問題解決に当たっての閣議了解等を踏まえ、水俣病総合対策、地域再生・振興などを着実に実行した。特に、総合対策医療事業においては、地域住民約8千人に対して健康診査を始めとした健康管理事業を実施するとともに、約1万人の手帳保持者に対して療養費の支給を始めとした医療事業を実施した。

下位目標2	水俣病の経験を国内外に情報発信し、世界各地で顕在化している水銀汚染問題について、我が国の経験と技術を活かした国際協力を進める。
達成状況	・平成15年3月、中国天津市において「開発途上国に対する水俣病経験の

普及啓発セミナー」300名（現地の行政担当者、研究者等）の出席者を得て開催し、水俣病の教訓を伝えた。

・国立水俣病総合研究センターにおいては、10月、米国ロチェスター大学の研究者等を招聘して「微量メチル水銀曝露と幼児成長に関する国際フォーラム」の開催、11月、タンザニア国において「水銀汚染に関する国際ワークショップ」を開催地国及び周辺国等の研究者の参画を得て開催した他、延べ16名の海外研究者の招聘、延べ15名の研究者の海外派遣及び150名の開発途上国等からの研修生の受け入れを行った。

・国立水俣病総合研究センターの附属施設である「水俣病情報センター」を活用し展示を行った他、市立水俣病資料館と協力し「語り部講話」を66回、県環境センターと協力し「環境学習」を18回開催するとともに、「子ども国連環境会議推進協会」、「ヨハネスブルグサミット報告会」及び「国立水俣病総合研究センター公開セミナー」を開催し、平成14年度約30,780人の来館者を得た。また、別途ホームページ等による情報発信を実施した。

評価、及び今後の課題政策への反映の方向性

評 価	<p>【必要性】（公益性、官民の役割分担等）</p> <p>平成7年の水俣病問題の政治解決に際しての閣議了解事項等を着実に実行することが必要である。</p>
	<p>【効率性】（効果とコストとの関係に関する分析等）</p> <p>水俣病経験の情報発信と国際貢献及び水俣病に関する総合的研究等閣議了解事項を着実にを行うことにより、水俣病のような悲劇を二度と繰り返すことのないよう被害の未然防止が図られる。</p>
	<p>【有効性】（達成された効果等）</p> <p>目標に対する総合的な評価</p> <p>水俣病総合対策については、対象者の高齢化に対応した水俣病総合対策の運用改善及び地域再生・振興の着実な実施など、地元団体等関係者の評価が高く、今後も確実に実施していく必要がある。</p> <p>また、水銀汚染が懸念される国での現地住民等に対する普及啓発セミナーは啓発効果が大きく、引き続き世界各地の水銀汚染問題の防止に向けた国際貢献等を強化していく必要がある。</p> <p>水俣病に関する総合的研究については、医学的研究や臨床・疫学研究を進めているが、近年UNEPを中心として低濃度の水銀汚染による影響解明の取組が進みつつあり、こうした国際社会の課題に対し、積極的に対応する必要がある。</p>

	<p>下位目標毎の評価</p> <p>「(下位目標1)」</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象者の高齢化に対応した水俣病総合対策の運用改善及び地域再生・振興の着実な実施など、地元団体等関係者の評価が高い。 <p>「(下位目標2)」</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報発信と国際貢献については、水銀汚染が懸念される国での現地住民等に対する普及啓発セミナーは啓発効果が大きく、また我が国から参加した関係者の評価も高い。
今後の課題	<p>水俣病総合対策については、</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後とも確実に実行していく必要がある。 地元団体からの要望に添って、対象者の高齢化等に対応した運用面の改善等、可能な限り応えていく必要がある。 <p>チッソへの支援については、</p> <ul style="list-style-type: none"> 原因者としての責任を確実に遂行させる必要がある。 平成12年の閣議了解に基づき、所要の支援措置を講じていく必要がある。 <p>情報発信と国際貢献については、</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き水俣病経験を国内外に発信し、世界各地の水銀汚染問題の防止に向けた国際貢献等を強化していく必要がある。 <p>水俣病に関する総合的研究については、</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年UNEPを中心として低濃度の水銀汚染による影響解明の取組が進みつつあり、こうした国際社会の課題に対し、積極的に対応していく必要がある。

事業の改善・見直し	<u>理由の説明</u> (新規、拡充、縮小、廃止等)
現行のまま継続	<u>理由の説明</u> 水俣病総合対策について、平成7年の閣議了解等に基づき確実に実行し、水俣病に関する総合的研究について、着実に進める必要がある。

【別紙】

事務事業シート

施策名	- 10 - (2) 水俣病対策	
事務事業名 (関連下位目標番号)	事業の概要	主な関連予算事項等 (14年度予算)
水俣病対策	<p>平成7年水俣病問題政治解決に際しての閣議了解等に基づき、水俣病総合対策（健康管理事業、医療事業）</p> <p>チッソ支援などの地域振興</p> <p>水俣病経験の情報発信と国際貢献</p> <p>水俣病に関する総合的研究等を実施するものである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水銀汚染対策等調査推進事業 (31 百万円) ・ 認定業務等促進関係経費 (30 百万円) ・ 水俣病総合対策等関係経費 (1 , 628 百万円) ・ 水俣病対策地方債償還費 (7 , 339 百万円) ・ 健康被害調査研究費 (水俣病に関する総合的研究) (33 百万円) ・ 国立水俣病総合研究センターに必要な経費 (656 百万円)